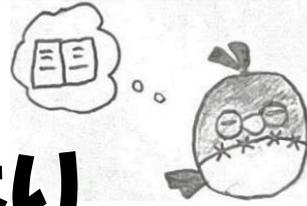


諏訪台中学校

図書館だより



学校図書館キャラクター
フクローさん

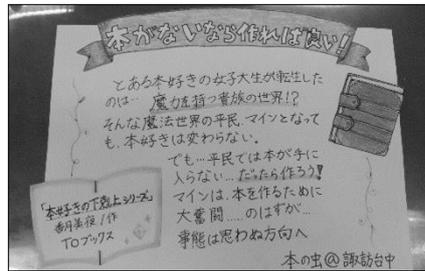
令和7年5月発行
荒川区立諏訪台中学校
校長 出井 玲子
学校司書 神谷 裕子

読書週間 6/3(火)~6/9(月)

テーマ「小学生に本を紹介しよう」

読書を愛するまち あらかわ
荒川区は、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を行い、「本が身近にあるまちづくり」を積極的に進めています。

6月に入ると読書週間が始まります。今回の読書週間には、小学生のみなさんに本を紹介するPOP（ポップ）作りを行います。1年生は小学校低学年に向けて、2年生は中学年に向けて、3年生は高学年に向けて紹介したい本を選びます。図書委員の説明をしっかりと聞き、小学生のみなさんが読みたくなるような素敵なPOPを作りましょう。完成したPOPは、日暮里図書館や近隣の小学校で展示をしていただく予定です。



学校図書館にはPOPの作り方の本や見本があります。見に来てください。

ブックメニュー 本の中に出てくる料理 どんな味？



今年度も栄養士の吉井先生にご協力いただき、本の中に出てくる料理が給食に登場します。6月はブックメニューの日が2回あります。ぜひ、給食と物語の両方を味わってみてください。

主人公のタ士は、高校進学と同時に、ひよんなことから風変わりなアパートに暮らすことになります。そこは、妖怪と人間とが共生する「妖怪アパート」。この物語には、アパートの住人るり子さんが作る美味しそうな料理がたくさん登場します。しかし、るり子さんの正体も実は…!?

「妖怪アパートの幽雅な日常」
香月 日輪/著、講談社

著者が、実在した女性、安武千恵さんの生き方に強く影響を受けて書いた物語『こーちゃんのお味噌汁』。千恵さんは、乳がんを患い、33歳という若さで、この世を去ってしまいました。亡くなる前、まだ幼稚園児だったお嬢さんに、おみそ汁の作り方を教えたといひます。他にも7つの食べ物にまつわる温かいお話がおさめられている短編集です。

「あつあつを召し上がれ」 小川 糸/著、新潮社

学校図書館を活用した授業の様子



1年生 美術
レタリング 自分の名前を書いてみよう

本の表紙の文字は、形（書体）や色などがその内容に合わせて工夫されています。さまざまな文字のデザインに触れて、イメージを広げ、自分の名前の文字をレタリングします。

読んでみませんか？ ノンフィクション

ノンフィクションとは、物語や小説をまとめてフィクションというのに対する言葉で事実や記録をそのまま伝える作品のことです。4月に3年生が行ったノンフィクション作品の味見読書（5分間のお試し読書）で、人気だった本を紹介します。

「自分はバカかもしれない
と思ったときに読む本」
竹内 薫/著、河出書房新社

インパクトのあるタイトルで多くの生徒が手に取って試し読みをした本です。作者の体験や歴史上の人物の体験を通じて、どうしたら自分の可能性を信じて大きく羽ばたくことができるのかを考えます。大切なのは、アタマのやわらかさ？!

「言語学クエスト」
ことらボ りよ/著、彩図社

タイトルにもなっている「クエスト」は英語で「探求」を意味し、ロールプレイングゲームでは冒険の意味合いで使われることもあります。この本では、「ゴルゴンゾーラはなぜ強そうに聞こえる？」など32の問いからなることばの謎を探求します。言語の先に広がる大きな世界を感じよう。

返却期限を守りましょう。

学校図書館の本の貸出期間は、2週間です。返却期限を過ぎている本を持っている人は、すぐに返却しましょう。ルールを守ってみんなが気持ちよく使える図書館にしましょう。